

2019年全日本カート選手権 FS-125部門/FP-3部門 東地域第4戦
2019年ジュニアカート選手権 FP-Jr部門/FP-Jr Cadets部門 東地域第4戦 [JAF公認No.2019-1813]

開催日：2019年8月24～25日 開催場所：カートソレイユ最上川 格式：国内/準国内 主催：RTA [クラブ登録No.公認81303]

フォト/友田宏之、JAFスポーツ編集部 レポート/水谷一夫

今シーズンの東地域は毎回ウィナーが変わる混戦状態。第2戦、第3戦と手堅く表彰台を獲得し続けた野村勇斗選手がポイントリーダーに躍り出た。

野村勇斗選手が全セッショントップを獲得し初優勝!

2019年全日本カート選手権シリーズの後半戦、東地域第4戦は山形のカートソレイユ最上川が舞台だ。最上川の河川敷に設けられたこのサーキットは、300m近い全開区間とタイトな180度ターンの折り返しという相反する要素を併せ持ち、セッティングやレース運びには独特のノウハウが求められる。

決勝日は青空と白い雲が入り混じった空模

様。時折、わずかな雨粒が落ちる場面もあったものの、それが戦いに影響を及ぼすことはなく、レースはどのクラスも好バトルとなった。

FS-125部門の決勝は24周。タイムトライアルトップから予選ヒートを制してポールに着いたのは、ルーキーの野村勇斗選手だ。2016年にFP-Jr Cadets部門を、2017年にFP-Jr部門を制してジュニア選手権2連覇を果たした13歳の逸材は、第2戦・第3戦とも2番グリ

ッドから2位フィニッシュと、優勝にあと一歩届いていない。この初ポールは、待望の1勝目に大きく近づくビッグチャンスだ。

先頭のままレースを開始した野村選手の背後には6台のマシンがピッタリと張り付き、虎視眈々と逆転の機会を窺う。そんな状況を意に介さず、野村選手は自分の走りに集中して7台の先頭集団を牽引していった。

すると11周目、9番グリッドから浮上してき



FS-125部門/1.初優勝の嬉しさを表す1位のサインを掲げ、チェッカーを受ける野村選手。2.星涼樹選手はわずかに届かず、悔しさが残る2位となった。3.3位入賞で初表彰台を獲得した平安山良馬選手。4.入賞の皆さん。



FP-3部門／5. 堅実な走りで上位集団に食らいついていった鈴木太郎選手が2位。6.3位入賞となった川福健太選手。7.0.本大会ではストレートで伸び悩んだ山本祐輝だったが、茂原大会に続き連勝を飾った。



た星涼樹選手が、1周で3台をパスして2番手へ。平安山良馬選手らライバルたちもそれに応戦し、2位争いがにわか熱を帯びた。すると野村選手の後ろにギャップが開き、その間隔は3周で1秒以上に拡大する。全力でトップをひた走る野村選手は、後続を引き離れたまま疾走、そしてナンバー1サインを掲げて初優勝のチェッカーをくぐった。今季東地域4人目のウィナーの誕生だ。

「途中で後ろが離れていると分かってからは、落ち着いて走れました。優勝できてめちゃくちゃ嬉しいです」とコメント。これで野村選手は東地域のランキング首位に浮上。同時に、2週間後に控えたOK部門世界選手権への挑戦に弾みをつける、価値ある1勝だった。

2位となった星選手は、平安山選手との長い接戦に討ち勝つと、レース終盤は野村選手とのギャップを0.4秒弱まで縮めてゴール。グリッ

ドがもう少し上だったら……と想像させる快走だった。平安山選手はグリッドからひとつ順位を下げたものの、3位フィニッシュで初表彰台を獲得。その後方で繰り広げられた4位争いは、大宮賢人選手が0.05秒差で野澤勇翔選手を下して手中に収めた。

9台が出走したFP-3部門も、大集団によるトップ争いとなった。先頭集団にはスポット参戦ながら速さを見せる東北勢の太田達也選手、高橋英義選手も加わって、6台一列の戦い。その中で、ボールの山本祐輝選手はストレートの伸びを欠いて苦戦を強いられ、序盤で半田昌宗選手にトップを奪われてしまう。

そこにグイグイと迫ってきたのが、予選のリタイヤで8番グリッドに沈んだ佐々木大可選手だった。スタートから6周で山本選手のテールを捕えた佐々木選手は、そこから3周で前2台をかかわってトップに浮上。やがて背後にいくら

かのギャップを開いてチェッカーへと駆け抜けた。最終ラップまでもつれた2番手争いを制したのは、佐々木選手の11歳下のチームメイト半田選手。暫定表彰式の中央に立った佐々木選手は、チームへの感謝を語りながら目に涙を滲ませた。

ところが決勝後の車検で、佐々木選手と半田選手、そして4番手でゴールした太田選手に失格の裁定が下り、佐々木選手の2勝目は幻に。最終結果は一転、3番手でチェッカーを受けた山本選手の2連勝となった。

2位の鈴木太郎選手は、先頭集団から大きく遅れず走り抜いたことが功を奏して、自己最上位を獲得。2番グリッドからスタートミスで大きく順位を下げた川福健太選手は、最終ラップに2番手まで復帰するも最後のバトルでアクシデントを避けて6番手のゴールに終わったが、繰り上がりで3位となった。



FP-Jr部門／鳥貫結季選手、浅見謙心選手、村田悠磨選手がラップリーダーの座を奪い合いながら引張る先頭集団には、出走10台のうち8台が連なり、レースは大混戦。9.8番グリッドから順位を上げてきた佐野雄城選手が割り込み、最終ラップの逆転でトップに立って初優勝を射止めた。10.最終ラップに多重アクシデントが発生したが、ここをうまくすり抜けた富下季央菜選手が、2位フィニッシュで初表彰台を獲得した。11.柳沼光太選手も、目前の混乱に乗じて5つポジションを上げ、自己最上位の3位を手に入れた。12.入賞の皆さん。



FP-Jr Cadets部門／決勝は5番グリッドの鈴木悠太選手と3番グリッドの鈴木恵武選手が2周目から抜け出し、テール・トゥ・ノーズのまま延々とマッチレースを続けた。13.入賞の皆さん。14.惜敗の鈴木恵武選手は3戦連続の2位。15.序盤から単独走行を続けて3位となった菊池貴博選手は、東地域のポイントリーダーの座をキープ。16.チェッカー目前で鈴木恵武選手がスリップを使って鈴木悠太選手に並びかけ、2台はほぼ横一線でフィニッシュ。結果は0.002秒差で鈴木悠太選手の勝利となった。鈴木悠太選手は開幕戦以来の2勝目。